

よい文章を書くための15カ条 (解説編)

平成15年6月14日発行「補習校だより」第9号より抜粋

接続詞を適切に使い、前後関係をはっきりさせる。

必要のない「そして」を書いてはいけないことを で述べました。今回は、それ以外の接続詞についてです。

A「チョコレートはおいしい。しかし、歯に悪い。」

B「歯に悪い。しかし、チョコレートはおいしい。」

逆接は、前件よりも後件に重点がかかりますから、論理的にはそれぞれ次のように続くはず
です。

A 「だから、食べた後に歯を磨く必要がある。」

B 「だから、たくさん食べてしまうのも仕方がない。」

A・Bとも、チョコレートのおいしさと歯への悪影響について述べていますが、両者の認識と判断は大きく異なることとなります。

第5号で、「書くことは考えること」、さらには「書かなければ考えたことにならない」という言葉を紹介しましたが、接続詞を適切に用いることは、前件と後件との関係について考えることにほかなりません。「考える」の語源は、接頭語「か」+「向かう」ですから、「考える」とは対象に向き合うことであり、作文の意義も実はそこにあります。

では、子ども達に対する指導はどうしたらよいのでしょうか。

小学校低学年や、日本語力の不十分な子どもの作文には、「そして・・・、そして・・・、そして・・・」型や、「・・・けど、・・・けど、・・・けど、・・・」型が見られます。この場合は、語彙自体が乏しいのですから、まずは様々な言い方を教えます。

日本語力に問題のない子どもや中学生が論理的に適合しない接続詞を使っている場合は、「もっとぴったりの言葉はないだろうか」と問いかけ、考えさせることです。

それらへの資料も兼ねて、論理展開における前後関係の区分と、それぞれに属す接続詞を挙げます。本校の授業では、小4の下巻で と を、中1の一学期で ~ を指導しますが、国語学力というより日本語力と論理性の問題ですから、日頃から正確に考え、的確に話すよう心がけることがそのままトレーニングになります。

順接	だから・それで・そこで・それゆえ・したがって・すると等
逆説	しかし・けれども・だけど・だが・でも・ところが等
並立	また・および
添加	それから・それに・しかも・なお
対比・選択	あるいは・それとも・または・もしくは等
説明	つまり・要するに・すなわち・例えば・なぜなら・ただし等
転換	さて・ところで・では